



コロンボ日本人学校 学校便り

アーユ・ボーワン

平成24年11月19日 発行 No.7

失敗を恐れずチャレンジする子 世界一楽しい学校

「国際社会で活躍できる児童・生徒の育成」

校長 黒澤 秀美

先日（11月6日～8日）ナイロビで行われた「西南アジア・中東・アフリカ地区の日本人学校校長研究協議会」に行って参りました。初めてのアフリカでしたが、紫色のジャカラの花があちこちに咲き誇り一年で一番いい季節とのことでした。会議の内容は「全体協議」「講話」「学校別協議」「学校訪問」「授業参観」「情報交換」「各校照会事項に関する意見交換」などでした。全体協議では、文科省から提出されていた「グローバル人材育成を目指した教育活動」というテーマで提案のあと研究協議が行われました。それぞれの日本人学校で取り組んでいる実践状況や課題など出されました。ほとんどの学校で取り組まれていることは、コミュニケーションツールとしての語学教育（英語）の充実やそれぞれの学校の置かれた環境を生かし、国際理解、現地理解教育に努めているとのことでした。本校も、グローバルという言葉こそ使っていないものの「国際社会で活躍できる児童・生徒の育成」を教育目標に掲げ、グローバルな人材育成に取り組んでいるところです。

ところで、その一週間前、行われたキャンディ、ヌワラエリア方面への宿泊学習（3年生以上）でダム及び発電所の見学をしましたが、ダム等について説明のあとの質問コーナーの中で、ダム建設に関わる質問とは別に「国際社会で活躍できる人間とはどんな人でしょうか？」という質問をした子がいました。語学や現地理解は、ともに、とても大切なことですが、こうして子どもが「国際社会で・・・」「・・・活躍するには」ということを意識していることが、とてもうれしく、大切なことだと感じました。つまり、こうした意識付けこそがグローバル人材育成には欠かせないものではないかと改めて実感した次第です。

因みに、長年いろいろな国で活躍されている皆様の回答は「現地の人と積極的にコミュニケーションをとろうとすること」「その国を好きになること」「何でも食べられること」「物事を前向きに受け入れること」などとても説得力と実感のあるお返えでした。どうもありがとうございました。

